



①

きつねの盆あどり

文・画

ときわひろみ

演出の覚書

夕暮れの山道を 一台の車

息子「おかあちゃん、疲れて

母「ああ、大丈夫。久しぶ

親戚まわりして ほっ

運転しているのは 五十才

横に乗っているのは その

と、その時、前方をさっと

息子「あっ、犬だ、ガリガリ

母「きつねだよ。

そうだ、貰ってきた残

息子「だめだよ。生態系がく

母「なにいつてんの、可笑

ひもじい思いもした

さあ、とめておくれ。

(ぬく)

こちらはサンプル画像です



②

母 「子ぎつねと親だ。かわ

ほら、おたべ。」

息子 「うわあつ、ガツガツた

おなかへってたんだな

親はたべないでこつ

ほら、遠慮しないでた

母 「親はえらいね。

まずは子どもなんだ

息子 「さあ 日が沈むよ。じ

急ごう、おかあちゃん

ふたりはあわてて車に乗

しかし……あれあれ

(ゆっ

同じ所をぐるぐる回

行ったり来たり

こちらはサンプル画像です

演出の覚書

親ぎつねに向かって。

感心して。

【作者紹介】 ときわひろみ

福岡県生まれ。紙芝居作家、実演家、手づくり紙芝居の講師。紙芝居づくり40年。

子ども向けの紙芝居は「きつねのうらないや」「ほねほねマン」シリーズなど(童心社)。「よんでよんで」「あとかくしの雪」「おたまじゃくしのアッペとトッペ」など(教育画劇)。

大人のための紙芝居として「父のかお母のかお」「とぼしっこ」など(雲母書房)。「としよかんどろぼう」「おとしとり」(埼玉福祉会)。「おじいさんのできること」(第22回五山賞特別賞)「きつねの盆おどり」(第53回五山賞脚本賞)。

著書に「手づくり紙芝居講座」(日本図書館協会)「認知症を予防することは遊び回想法」(雲母書房)など。



③

息子 「あれえ、急に暗くなっ

道に迷ったみたいだ。

母 「きつねに化かされてい

息子 「まさか、そんなことあ

母 「そうだよね。そうだと

あれっ、あっちがやけ

息子 「本当だ、にぎやかな音

テンテンテック ス

ピィピャラピィピャラ

母 「お盆が近いから 踊り

ちよっと、行ってみよ

息子 「うん、そこで道を聞い

(ぬく)

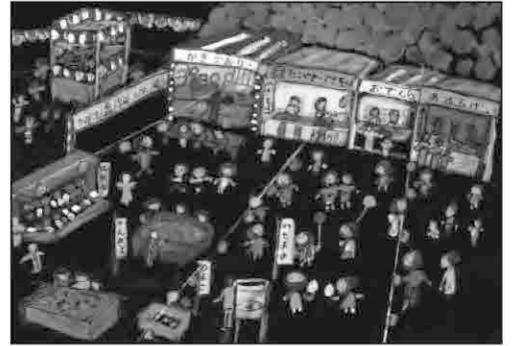
こちらはサンプル画像です

演出の覚書

不思議そうに。

不安そうに。

明るくリズムカルに。



4

母「うわあっ、やっぱり分

屋台もでてる。おでん

やきそば、ああっ、線

いいところに来たね。

ねえ、ちよっと見て

息子「うん、少しだけだよ。

母「うん、少しだけ。」

(ぬき)

へテンテンテレック ステ

つつてんつつてん つつ

パイパイパイピヤラ

こちらはサンプル画像です

「盆おどりで 心を解放しよう！」

娯楽の少なかった頃、庶民の大きなイベントのひとつは盆おどりでした。

ムンムンとした夏の日の夜、浴衣姿で音楽に合わせて踊る人々は互いに心地よい連帯感と共に土臭いときめきすら感じ合いました。

終戦後すぐ、全国各地で催された盆おどりの会場はどこも大勢の人々であふれたそうです。皆この日を待っていたのです。盆おどりは仏教的に言えば先祖の霊を慰める行事ではありますが、生きている人間にとっては生き生きと暮らすための大切な行事なのです。普段の鬱積した生活からの解放、でもあったのです。踊りの持つ心を自由に解放つのです。

というわけで、演じ方のこな心で楽しく進めるのが一足拍子はあたりまえ、踊るの心底愉快に演じれば観る人せ参加してくれるでしょう。「炭坑節」は観客の皆さんが

演出の覚書

うれしそうに、はしゃいで。

冷静に。

子どものように。

- ・ 軽快に。
- ・ 太鼓
- ・ 三味線
- ・ 笛



⑤

ドンドン ドンガラガツガ
ドドンがドン

母「ああ いいねえ。何十
なつかしいねえ……。
友達や、隣近所の人達
夜遅くまで ワイワイ

と、その時 おはやしがや
男衆「えー 本日は晴天ない
アツアアアー 只今マ
はい、オツケー。では

(ぬき)

と、世話人さんのご登場です

こちらはサンプル画像です

演出の覚書

大声で。

うっとうど。

とりすまして。



6

世話人「こんばんは。」

皆さま、お暑いところ

まことに、ありがとうございます

恒例の「盆おどり大会

今年も盛大に、始めた

ちようど、お月さまも

絶好の 盆おどり日和

みなさま、心ゆくまで

紙芝居をご覧の皆さま

手拍子、足拍子、手踊

よろしくよろしく、お

母「ねえ、なんだかあの

きつねっぽくないかい

息子「しっ、きこえるよ。」

(ぬき)

世話人「オープニングは

もちろん、これでござい

東京音頭！」

こちらはサンプル画像です

演出の覚書

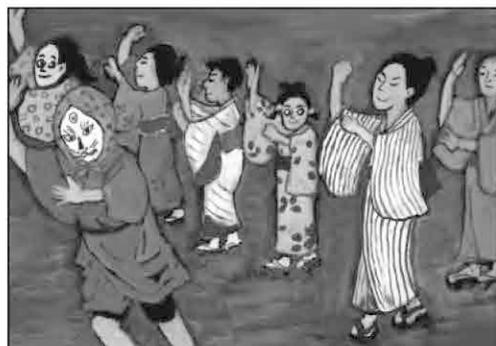
慇懃無礼に。

うたぐって。

声を押しこらして。

できたら前奏を口ずさみながら





7

♪ハア 踊り踊るなら

東京音頭 ヨイヨイ

花の都の 花の都の直

ヤートナ ソレ ヨイ

ヤートナ ソレ ヨイ

♪ハア 花は上野よ 千

柳は銀座 ヨイヨイ

月は隅田の 月は隅田

ヤートナ ソレ ヨイ

ヤートナ ソレ ヨイ

母「ああ、がまんできない

私も、浴衣着て 下駄

踊りたいよー」。

おかあちゃんは 思いつ

と、その時

(わっしょい)

こちらはサンプル画像です

演出の覚書

画面ゆらしながら、
演者も心躍らして。

東京音頭

作詞：西條八十

作曲：中山晋平

2番は省略してもよ
い。

少女のように。

大声で。



8

ビューン

ブルルルル

とつぜん 一陣のトルネード
激しいつむじ風が まき
あれあれ、ありやりやん
あーら不思議。

(おっ)

いつものまにやら
母と息子は大変身!

こちらはサンプル画像です

演出の覚書

画面ゆらしながら。

たたみかけるように
一気に。

高齢者紙芝居シリーズ⑦
『きつねの盆おどり』

2023年3月1日 第1刷発行

文・画：ときわひろみ

発行：埼玉福祉会 出版部

印刷・製本：吉原印刷株式会社

新しい視点で図書館を考える



社会福祉法人 埼玉福祉会

〒352-0023 埼玉県新座市堀之内3丁目7番31号

TEL.048-481-2188 FAX.048-481-0752

ホームページ <https://www.saifuku.com>

Eメール shohin@saifuku.com

©Saitama Fukushikai Social Welfare Corp.2023, Printed in Japan

日本音楽著作権協会 (出) 許諾第 2210176-201 号

ISBN 978-4-86596-557-5 C0776



9

母「あらっ。」

息子「わっ、おかあちゃん。」

ふたりは、びっくりし

たまげた 駒下駄 口

息子「おかあちゃん、似合っ

母「そうかい、あんただっ

世話人「次は、お待ちかね

(ぬき)

母「ひゃーっ、私のおは

踊るよ。あんたも後

こちらはサンプル画像です

演出の覚書

すっとんきょうな声。

びっくりして。

一気につづけて言う。

てれながら。

とりすまして。

うれしそうに元気に。

【おはこ】
十八番、得意な芸や技
のこと。



10

息子

「えーっ、おかあちゃん、あぶない、ころぶよ。」

ほら、ほら、杖持って

母

「やだね、そんなもん

踊りだせばいらぬの

きりりと身構えるおかあ

世話人

「さあ、皆さまも、唱

手拍子、足拍子、

できる範囲で、動かし

ハイっ。」

(きつ)

こちらはサンプル画像です

演出の覚書

あわてて。

きっぱりと。

観客に元気に呼びかけて。

できたら前奏を口ずさみながら





11

♪ 月つきが出でた出でた 月つきが出でた
三池炭みいけたん鉱こうの 上うへに出でた
あんまり 煙突えんとつが 高たか
さぞやお月つきさん 煙けむた
サノヨイヨイ

母はは「いい こうやって 踊おどる
へ 掘ほって 掘ほって ま
かっいで かっいで
押おして 押おして 開ひ
さあ、もう一回いっかい いく

(一番)
(ゆっ)
さて、時ときがたち、
コケコッコー 夜よが明あけ

こちらはサンプル画像です

演出の覚書

画面をゆらしながら
元気に。

炭坑節
作詞・大高ひさを

これは炭坑節の踊り
方を覚える時の振り
です。
炭鉱夫が石炭を採掘
する様子を表現した
ものとして知られ踊
りの躍動感をいやが
うえにもたかめてい
ます。



12

女「あら、あの人達 踊つ

男「親子のようだな。」

朝、畑に来た人達が 二人

男「オーイ 熱中症になる

二人は、そんなことには気

息子「おかあちゃん、楽しい

杖なくても平気なんだ

母「ああ、雀百まで踊り上

言っじゃないの。おか

死ぬまで元気にいるよ

がんばるよ。」

カア カアツ

お山のカラスが 笑って飛

そろそろ、気がつくのでし

こちらはサンプル画像です

おしまい

演出の覚書

大声で呼びかける。